



三重大学生物資源学部の オープンキャンパスはいかがでしたか？



今後の参考のため、ぜひアンケートにご協力ください！
QRコードを読み取って、回答してください。



本日はお越しいただき
ありがとうございました。
お気をつけておかえりください。

秋のミニ
**オープン
キャンパス**
2026. 10/17(土)

詳細に関しましては、
後日、本学 HP 等で
公開予定ですので、
そちらもご確認ください。

近鉄「江戸橋」駅 時刻表

土休日（2026年7月1日現在）

名古屋方面 赤字：急行 / 名古屋行
黒字：普通 / 四（四日市行）

12 時	02	05	19	四 32	42
13 時	02	05	19	四 32	42
14 時	02	05	19	四 32	42
15 時	02	05	19	四 31	42 四 49
16 時	06	10	30	名 32	42 名 49

伊勢中川（奈良・大阪）方面

赤字：急行 / 松阪行・宇治山田行・五十鈴川行
黒字：普通 / 津新（津新町行）・中（伊勢中川行）

12 時	松02	津新11	五22	津新34	松44
13 時	松02	津新11	五22	津新34	松44
14 時	松02	津新11	宇22	津新34	宇44
15 時	松02	津新11	松22	中31	五44 津新53
16 時	松03	津新12	松22	津新32	五47

三交バス「三重大学前」停 時刻表

土休日（2026年7月1日現在）

津駅方面

12 時	07	33	37		
13 時	05	07	37	45	50
14 時	07	33	37		
15 時	07	37	38	50	
16 時	07	33	37	41	50

三重大学 生物資源学部

OPEN CAMPUS 2026

2026. 8/8 sat

9:00 ~ 15:00

生物資源学部校舎

page
1

・生物資源学部
オープンキャンパスへようこそ
・タイムスケジュール

page
2

・模擬授業

page
3

・ブース紹介

page
4

・研究室自由見学について

page
5-10

・生物資源校舎案内図
研究室紹介

page
11

・アンケート
・秋のミニオープンキャンパス
・交通機関時刻表

生物資源学部オープンキャンパスへようこそ

生物資源学部長 橋本 篤

生物資源学部は 1921 年に創立された三重高等農林学校を前身とし、100 年以上の歴史を誇ります。農学部と水産学部を合併し、日本ではじめて「生物資源」という名称を冠したユニークな学部として、教育・研究活動をおこなっています。大学院の博士課程を単独で設置しており、学部学生の定員も 260 名と、東海・北陸・近畿・中四国地方では有数な規模を誇ります。本学部には約 70 もの教育研究分野があり、農林水産学系のほとんどの学問領域を網羅する数少ない大学のひとつです。また、紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター（農場、演習林、水産実験所）や、東海・北陸・近畿地方の国立大学では唯一の練習船「勢水丸」、さらには生物資源学部が中心的な役割を果たしている日本初の鯨類研究センターといった充実した関連施設を有しています。

「山の頂から海の底まで」を掲げる本学部のスタッフは、これら広大なフィールドすべてを教育研究の対象とし、「持続可能な未来を創る」ために食料、環境、健康、バイオ分野で活躍できる人材の育成に日々取り組んでいます。あなたの好奇心を刺激する場所がきっとここにはあります。私たちと一緒に、次世代の生物資源学への一歩を踏み出しましょう。



憧れのキャンパスライフを先取りできる貴重なイベントが盛りだくさん。スケジュールをしっかりと把握して、効率的にまわろう！

内容	実施場所	実施時刻
受付	生物資源学部 1F	9:00～14:30
模擬授業	大講義室（218）	10:45～11:30 12:45～13:30
学部紹介・入試説明	大講義室（218）	9:15～10:15 14:00～15:00
入試相談室	220	10:00～13:00
コース紹介ブース	125	9:00～15:00
学生生活ブース	219	9:00～15:00
フィールドサイエンスセンター・勢水丸・連携大学院ブース	顕微鏡実験室（101）	9:00～15:00
研究室自由見学	3F～7F 各研究室	9:00～15:00

大学の授業ってどんな感じ？ 緊張せずに、楽しんでみよう。

模擬授業



タイトル 虫の研究が何の役に立つのか？

場所 大講義室（218）

時間 10:45～11:30

所属 農林環境科学コース

先生 鈴木 紀之

内容

私は昆虫の生態を研究しています。とはいえ、研究対象は害虫でもなければ、私たちの暮らしに利益をもたらすような種類でもありません。それでは、虫の研究が何の役に立つのか？ これは大学における学術研究の意義をストレートに問いただしているでしょう。

私の研究では、本の出版やポッドキャストの配信を通じて、成果をわかりやすく伝えるところまでをゴールとしています。こうすることで、学生と取り組んだ基礎研究が大学の中にとどまらず、社会へとつながっていくことになります。今回はこのアプローチについてみなさんとインタラクティブに議論したいと思います。



タイトル 地球は温暖化している？ それとも寒冷化している？

場所 大講義室（218）

時間 12:45～13:30

所属 海洋生物資源学コース

先生 小川 史明

内容

ニュースやインターネットでは、「温暖化」と「寒冷化」の両方の意見を目にすることがあります。では、いったいどちらが正しいのでしょうか。実は、異なる時間スケールで見れば、どちらも正しいのです。つまり、この2つは見ている時間の長さが異なります。では、私たちや子孫の世代が生き抜くこれから 100 年を考えると、どちらの考え方が重要なのでしょう。

私の模擬講義では、数千万年前から現在までの気候変動の歴史をたどりながら、現在起きている温暖化の特徴を読み解きます。科学的なデータをもとに、気候変動を冷静に考えるための視点を、わかりやすくお伝えします。



「こんなこと聞いてもいいのかな？」を、ぜんぶ聞けます。

ブース紹介

学部紹介・入試説明会

場所：大講義室（218） 9:15～10:15 14:00～15:00

- ・三重大生物資源学部の推しポイント
- ・どのコースで何が学べる？総合コースとは？
- ・合格から卒業までの流れ
- ・下宿事情、愛知や奈良からの電車通学
- ・三重大大学合格のポイント
- ・今年度から始まる総合型選抜の詳細解説！
いまやっておくことは？
- ・後期試験のペーパーインタビューとは？
- ・その他入試情報、
過去の入試倍率の分析 etc.

コース紹介

場所：125

このブースでは、生物資源学部の4つのコースをポスター展示を中心に紹介します。各コースの学びや研究内容をわかりやすくご覧いただけます。中でも、生物資源総合科学コースについては、カリキュラムや受験方法についての個別相談にも対応していますので、ぜひお立ち寄りください。

フィールドサイエンスセンター 勢水丸・連携大学院

場所：101



生物資源学部は「山の頂から海の底まで」の生物資源と環境を総合的に学ぶことができる全国でもユニークな学部で、それを支えているのが充実した附属教育研究施設（フィールドサイエンスセンター（演習林、農場、水産実験所）、練習船「勢水丸」と連携大学院です。附属教育研究施設はフィールドを中心とした教育・研究および地域貢献を目的とし、各施設の立地特性を活かした体験と研究ができる総合フィールドサイエンスの拠点として機能しています。また、当学部では様々な分野の最前線で活躍する研究機関や企業と連携し、高度な大学院教育を実施する連携大学院を設置しています。ブースでは、これらの施設や大学院で行っている教育・研究活動を紹介します。

学生生活

場所：219

生物資源学部の学生の日々の生活を紹介したポスターを展示しています。皆さんが気になる学生のキャンパスライフをご覧ください。



入試相談室

場所：220

教員と入試担当職員が、入学試験（一般入試、学校推薦型選抜、今年度より始まる総合型選抜など）について皆さんの質問にお答えします。入試の参考となる各コースの情報についても提供します。推薦Ⅰの過去問も配布しています。

ちょっと覗くだけでも大歓迎。研究室の日常、公開中。

研究室自由見学

どの研究室がどこにあって、どんな事をしているのか？
階ごとに以降のページでご案内しています。

研究室名

農林環境科学コース

部屋
番号

研究室紹介

研究室名

海洋生物資源学コース

部屋
番号

研究室紹介

研究室名

生命化学コース

部屋
番号

研究室紹介

研究室名

コース名

非開放
部屋番号

研究室紹介

◀ 研究室名が灰色の箇所は、非開放となっています。

- エレベーターは2台（Bゾーン、Dゾーン）とも使用可能です。
- 見学できる部屋には、ドアの前に統一規格の掲示があります。それを見つけたら、どんどん入っていきましょう！



校舎内をスタッフが巡回しています。
目的の部屋が分からないときなど、
お気軽に声をかけてください。

ご注意ください！

- ◆ 安全のために装置や機械・薬品等に許可なく触れないでください。
興味があるときは教員や学生に一声かけてから！
- ◆ ベランダに立ち入ったり、廊下の窓から乗り出したりしないで！
- ◆ その他、緊急の場合も含め、スタッフ（シールを付けています）の指示に従ってください。
- ◆ 研究室内では一切飲食は禁止されています。  
- ◆ 校舎改修工事のため、立入禁止や電気がついていない場所があります。
工事の状況次第で立入禁止の範囲が変わる可能性があります。

生物資源校舎案内図



水産応用情報学 海洋生物資源学 【ポスター展示】101

ビッグデータや情報通信技術を漁業・養殖業や海洋環境モニタリングに応用する研究を行っています。水産実験所ブースにて研究内容を紹介しています。

非開放

土資源工学 農林環境科学 316

国内外の農地施設と農業用排水施設における様々な環境問題に対する持続的手法による解決と災害への対応も含めた農業構造物の保全を目標としています。具体的には、農業構造物に重要な「土」、「地盤」、「材料」、「水」の土木学および工学的な現地調査・実験・解析手法に基づく地域環境保全に関する教育研究を行っています。

水資源工学 農林環境科学 319

農業・生命に欠かせない重要な「水」を研究しています。本研究室では、水草群落のあるため池、水棲生物であるカワニナを育む水路、ため池水難事故といった水環境を物理化学生物地学等の視点で調査実験解析しています。

水利施設工学 農林環境科学 325

農業に必要な水を水田や畑に導くまでには多くの施設が必要です。当研究室では、水を確保し導くための構造物やその材料の研究を行っています。ダム、橋や水路などの構造物に興味のある方は是非いらしてください。

農村計画学 農林環境科学 328

農村地域が衰退すると、都市域の暮らしはどうなるか、ご存じですか？
私たちは、農業・農村をどうやって維持していくか？どうやって守るか？を考えています。
農村で人が楽しく快適に暮らしていけるように、コミュニティのあり方、農地の使い方などを追究しています。

地球システム進化学 農林環境科学

ブルーカーボンの研究、スナメリの研究、大学や高校のカーボンニュートラル・ゼロエネルギー化に関する研究、農業における二酸化炭素吸収の研究、琵琶湖の変遷やミエゾウの足跡化石に関する研究、美杉村の自然エネルギー循環社会に関する研究、秋川の生物多用性に関する研究など、様々な内容の取り組みを行っています。

非開放
375

資源経済システム学 海洋生物資源学 343

国民の食料供給および豊かな食生活の実現に重要な役割を果たしている水産物の安定供給および地域経済の振興を目指し、当研究室では、新たな水産物の生産・流通・消費システムの構築を主な研究課題として、調査・研究・分析を行っています。

未来海洋予測学 海洋生物資源学 346

「海が未来の気候を左右する」・・・地球の表面積の7割を占める海は、大気に膨大な熱や水蒸気を与えることで、気候変動を制御しています。この研究室では、近年の極端気象の頻発化のメカニズムと海洋温暖化の関係について研究しています。

昆虫生態学 農林環境科学 365

希少種や生物多様性の保全、害虫や外来種のコントロールを目指して、現在はチョウ・カメムシ・ハチの仲間を実験室で飼育しています。昆虫の生態や進化に興味ある方はぜひお越しください。

資源作物学 農林環境科学 361

お米や麦、豆、いも、お砂糖になる作物を育てる研究をしています。肥料が入手困難な現状を鑑みて、国内の食品廃棄物から肥料を作り、作物栽培に役立てます。肥料と食料の自給率UPを目指しています。



気象・気候ダイナミクス 海洋生物資源学 351

「地球の謎を知ることってワクワクするぞ！」気象学をベースとして、地球規模の気象の長期変動や気候変動の仕組みの解明を目指して研究を行っています。学部レベルで気象学の勉強と研究を本格的にできる大学は、中京圏では三重大学だけです。

気象解析予測学

私たちは身近な気象から地球スケールの気象について研究しています。当日はその研究の一部について紹介します。

合同展示

分子遺伝育種学 農林環境科学 354

主に植物の遺伝子解析や品種改良に関連した研究を行っています。今年度は実験室を改装中のため、解放できません。ごめんなさい。



魚類増殖学

海洋生物資源学

610

淡水魚を中心として、魚類の生態や生活史を解析したり、外来魚の生態を解明して影響評価や駆除技術の開発につなげ、天然水域で魚を増やすための研究をおこなっています。本日は研究資料の一部を展示するほか、研究室の普段の姿を公開し、適宜質問にお答えします。

鯨類学

合同展示

海洋の高次捕食者である鯨類の生理、生態、行動などに関する基礎的研究と教育を行うとともに、野生鯨類の保全や人間活動による影響の軽減、水族館等における飼育個体の繁殖推進などについて取り組んでいます。本日は研究資料の一部を展示し、適宜質問にお答えします。

浅海増殖学

海洋生物資源学

625

甲殻類（主にえび類）の繁殖・成長に関する研究や、海産動物の幼生〜成体の餌となる微細藻類の特性解明・利用法に関する研究などを行っています。本日は飼育している生き物の一部を公開するとともに、適宜質問にお答えします。

木質資源工学

農林環境科学

604

樹木は私たちの暮らしを支える身近な存在です。しかし、その内部には細胞からナノレベルまで続く巧みな階層構造が隠されています。私たちは木材の強さや水との関わりを研究するとともに、香りや光、音などの五感が人の快適性や睡眠に与える影響を調べ、より良い木質空間や住環境づくりを目指しています。

木質分子素材制御学

農林環境科学

602

石油の代わりに、木材や農業残渣を使って、様々な製品を創りだす研究をしています。バイオマス、バイオエタノール、生分解性素材、リグニン、紙、地球温暖化、石油代替、循環型社会、などに関心ある皆さんは是非お越しください。現役大学生、大学院生が、最前線の研究をお見せします。

生物機能化学

生命化学

667

生き物から機能性物質を取りだして役立てる研究を行っています。本日は研究室の普段の姿を公開し、適宜質問にお答えします。※実験室内の器具や試薬には許可無くさわらないでください。

藻類学

海洋生物資源学

622

主に海藻と海草の生理・生態について研究をしています。培養実験や潜水調査を通して、その生き方や生態系での役割を解明し、環境修復や養殖に役立てることを目指しています。本日は培養している海藻や調査道具、実験機器を展示するほか、適宜質問にお答えします。

先端養殖管理学

海洋生物資源学

非開放615

魚介類の病気（魚病）に関すること、具体的には魚介類が病気にかかる仕組み（病理）、病気を起こす生物（病原生物）、病気から身を守る仕組み（生体防御）、および魚病の治療法や予防法などについて研究しています。

水族生理学

海洋生物資源学

非開放629

魚類・頭足類の視覚生理（視力、動体視覚、視野、色覚など）を中心に研究しています。解剖学、組織学、分子生物学的手法による解析データをもとにして、種の生態をさぐるとともに、釣り糸やルアーの視認性評価を行います。



創薬化学

生理活性化学

生命化学

合同展示

662

生物の世界では様々な瞬間に鍵と鍵穴の関係が活躍します。ウイルス、医薬品、香り、味、など様々な現象を解き明かすために鍵と鍵穴を化学的に研究しています。当日は、研究内容の説明と実験室の見学を行います。

栄養化学

生命化学

657

食品成分の機能性を明らかにしたり、動植物や微生物から得られた未利用資源を有効活用し、生活習慣病の予防や健康の増進に役立てる研究をしています。本日は研究室を公開し、適宜質問にお答えします。

生物海洋学

海洋生物資源学

非開放644

植物プランクトンは海洋生態系を底辺から支える重要な一次生産者ですが、中には赤潮や貝毒などを引き起こす危険な有害・有毒種もいます。私たちはそんな植物プランクトンがどのような環境下で出現し増殖するのかを現場調査と実験室内での培養実験や顕微鏡観察を通して調べています。

食品生物情報工学

生命化学

652

生物体や食品の光計測とそのバイオ・食品加工プロセスへの応用、食品の風味に関する基礎的な研究、先端的な食品加工技術などの研究を行っています。詳細については研究室HPを是非ご覧下さい。

水圏生物工学

生命化学

710

水産資源 × 微生物細胞工場 = 未来の「バイオものづくり」私たちの研究室では、水産資源の高品質化と高付加価値化を目指しています。海の生物遺伝資源から新たな有用遺伝子を探索し、その機能を解明しています。さらに、それらの遺伝子を用いて産業に有用な酵素や化学品原料を「微生物細胞工場」で生産する未来の「バイオものづくり」に取り組んでいます。これらの研究の積み重ねにより、水産資源の潜在力を未来社会に役立てていきます。

海洋生物化学

生命化学

705 726

海洋生物化学では海藻の生命現象のメカニズムを遺伝子やタンパク質レベルで調べる研究のほか、アコヤ真珠の色調に関わる色素の研究なども行っています。水圏生物利用学では本日は研究室を公開し、現役大学生、大学院生が、みなさんの質問にお答えします。

水圏生物利用学

合同展示

水圏生物や微生物の機能を活かし、水産食品のおいしさや品質形成の仕組みの解明、水産資源の有効利用や高付加価値化に向けた研究を進めています。本日は、海洋生物化学研究室の一部をお借りして展示を行っています。お気軽にご質問ください。

海洋微生物学

生命化学

706 702

海洋細菌の生態、代謝解析、有用微生物の利用について研究しています。研究室の見学では、微生物の単離・同定のための実験設備を展示しています。

食品発酵学

生命化学

771

発酵微生物がもつ酵素の機能や代謝経路を解明し、有用物質生産やエネルギー生産に役立てるための研究を行っています。当日は実験室を公開し、適宜質問にお答えします。

生物制御生化学

生命化学

非開放738

生体高分子化学

生命化学

非開放715

魚貝類にみられる特殊な機能や水生生物に共生するウイルスについて、生化学や分子生物学的な手法を用いて研究しています。応用研究として、真珠を育むアコヤガイから機能性成分を抽出し、新たな化粧品素材の開発を目指しています。

生物物性学

生命化学

非開放722

体の全体に血液を運搬している血管の細胞や筋肉の細胞の生理的機能を研究しています。これらの機能に関わるタンパク質やその遺伝子の機能を調べています。また食品の固さや流動性を調べる研究もおこなっています。



微生物遺伝学

生命化学

759

主に微生物によるバイオマス利用に関する分子生物学的研究を行っています。本日は研究室の普段の姿を公開し、適宜質問にお答えします。※遺伝子組換え実験を実施中ですので一部見学をお断りする場合があります。

分子細胞生物学

生命化学

754

主に動物細胞を用いて、DNA複製や転写、細胞分化などに関する研究を行っています。本日は研究室の普段の姿を公開し、適宜質問にお答えします。※一部精密機械や化学試薬がございますので、それらについてはお手をふれないようお願いいたします。

水圏材料分子化学

生命化学

718

水棲生物を中心とした天然物から私達の健康や美容面に有効な成分や機能性構造物を探索するとともに、細胞や実験動物、ヒト皮膚組織を利用してそれらの作用機構を明らかにする研究をしています。本日は研究の紹介や皆様のご質問に教員ならび学生がお答えします。

海洋食糧化学

生命化学

非開放総研II

大型藻類は、二酸化炭素の吸収源やものづくりの原料として現在、注目されています。研究室では、有用な大型藻類について培養方法から利用法（海藻ポリフェノールや希少糖をはじめとする生理活性物質の生産と利用）の開発まで研究に取り組んでいます。